

2017 年度 学術交流支援資金報告書

外国語電子教材作成支援

科目名: ドイツ語インテンシブコース 1～3 および ドイツ語ベーシックコース 1～2

該当科目: 外国語科目

研究代表者氏名: 平高 史也

所属／職名: 総合政策学部兼政策・メディア研究科／教授

教材の URL: <http://deutsch.sfc.keio.ac.jp/modelle1.html>

採択総額: 800,000 円

共同担当者: 藁谷郁美 総合政策学部兼政策・メディア研究科 教授
コンテンツ作成、運用のための作業

共同担当者: レオボルト・シュレンドルフ 総合政策学部非常勤講師
コンテンツ作成、運用のための作業

共同担当者: 佐藤友紀子 政策・メディア研究科博士 2 年
コンテンツ作成、運用のための作業

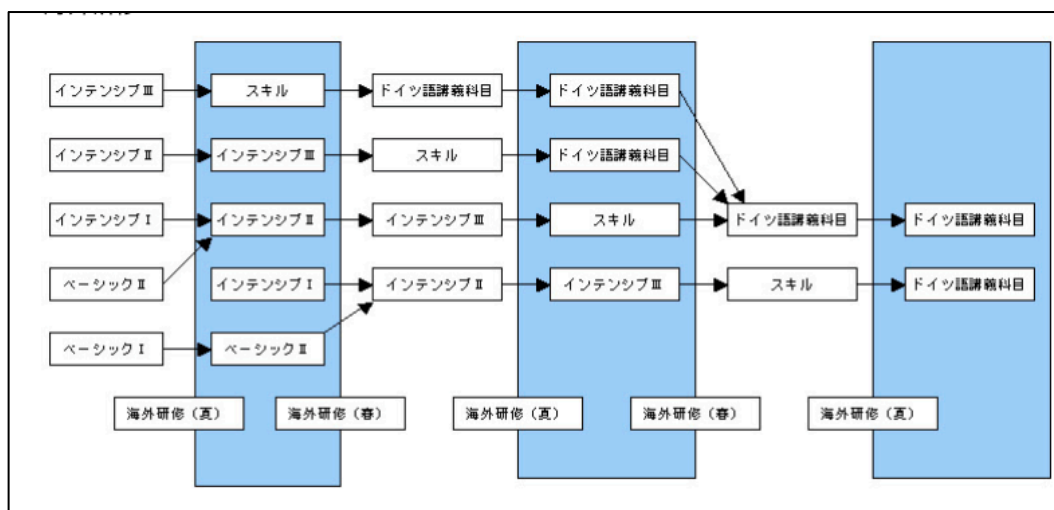
共同担当者: ステファン・ブリュックナー 政策・メディア研究科博士 1 年
コンテンツ作成、運用のための作業

1. 研究の背景と目的

SFC における多言語主義は、キャンパス設立以降現在に至るまで、重要な「理念」の一つである。外国語科目として 2 言語以上の履修をおこなう学生も少なくない。さらに将来はより多くの留学生を受け入れる状況となる。その意味で日本語も視野に入れた外国語学習環境の構築は、SFC 全体で取り組むべき重要な課題のひとつであるといえる。本教材開発で目指す目標は、単なる教材作成ではなく、体系的かつ自立学習可能な環境の設計である。個別無数の教材コンテンツを集積した環境は、学習者の自立学習を促すことが不可能であるばかりでなく、本来重要である学習上の「気づき」をうながすことを妨げる。SFC における言語教育の理念に準拠したプラットフォームづくりが必要であると考え、そのための動機付けのひとつとして本教材開発活動を位置づける。

2. 本研究のテーマ背景

本活動は、SFC においてドイツ語科目（言語コミュニケーション科目）「ドイツ語インテンシブコース初級 1」，「ドイツ語インテンシブコース初級 2」，「ドイツ語インテンシブコース初級 3」，「ドイツ語ベーシックコース 1」，「ドイツ語ベーシックコース 2」のために作成した動画教材を，より多様なデバイスに対応させるための再構築および運用を目指すものである（図 1 参照）。現在、総合政策学部および環境情報学部で設置されているドイツ語インテンシブコース初級 1～3、ならびにドイツ語ベーシックコース 1～2 の全コースで使用する教材コンテンツ「Modelle 問題発見のドイツ語」1～3 巻は、その主要部分を動画教材で構築されている。現在、作成したコンテンツは、DVD メディア媒体の他に Web 上で閲覧可能な状態で運用されている。しかしながら近年、周辺機器の多様化および学習スタイルの多様性に応じた更新が停滞しており、教室内のフォーマル・ラーニングが教室外のインフォーマル・ラーニング空間に連動されない状況が続いている。背景には、主に携帯端末の仕様が細分化・多様化する傾向のなか、個別に対応する更新デザインが追いつかないことが挙げられる。同時に、現在の学習者が日常性のなかで保持する学習環境の実態をデータとして把握していない点も問題の背景として挙げられる。



を、再度、見直すことから開始した。

その際、教室内のフォーマル・ラーニングを、教室の外で各自の自発的行動としておこなわれるインフォーマル・ラーニングに連動させるために、全体のドイツ語履修者向け教材を授業と連動する形で構築することを重要視した。

具体的な手順および各作業内容は、以下の通りである：

a) Web 教材全体の見直しおよび枠組みの再確認

現在、履修者に提供する独自に作成・運用する Web 教材群をあらためて見直し、個々の教材内容の更新および全体の枠組みについて、検討をおこなった。できるだけ現在の履修者がもつ学習の嗜好性・動機付け・日常に使用するデジタル環境を反映させた学習環境を維持するため、2017 年度の前半に、一部のドイツ語科目履修者およびドイツ語研究室 SA を対象に聞き取り調査をおこなった。聞き取り調査の結果は研究室内でディスカッションをおこない、今後の方向性および具体的な作業内容を検討した。

b) 既存の教材コンテンツの更新および新規教材コンテンツの構想・制作

上記 a)のプロセスを経た上で、全体の構成に関わる更新作業と同時に、個々の教材の更新および新規作成の有無について話し合いを重ねた。その結果、今年度の作業対象を、(1)履修者にとってインフォーマル学習のインターフェースとなる HP トップページの内容およびデザインを更新（図 2 および図 3 参照）、(2)それに伴う HP 構築の際の階層構造の設計、既存データの形式変換、各階層構造のデザインおよび画像素材などの収集を開始した。

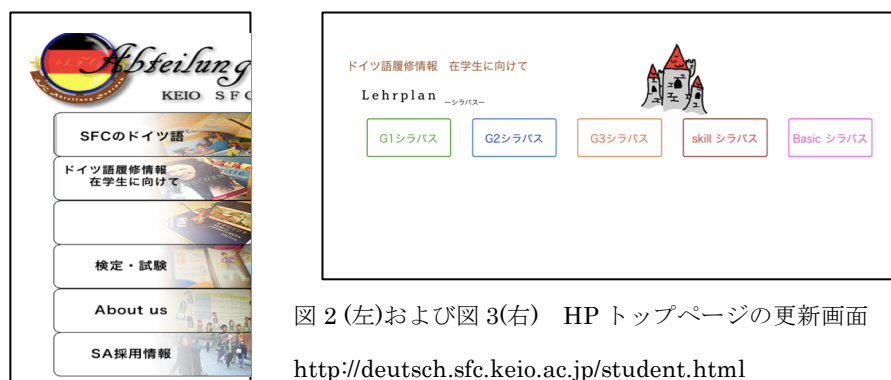


図 2 (左)および図 3(右) HP トップページ更新画面

<http://deutsch.sfc.keio.ac.jp/student.html>

c) コンテンツの作成および運用

複数の項目から、緊急性が高く、かつ作成の素材が揃えやすい項目を優先して作

成する計画で、教材の中でも特に音声教材の更新と再入力を遂行した。インテンシブ 1 コースおよびベーシック 1、ベーシック 2 のコースで使用する教材「Modelle 1 問題発見のドイツ語」を対象に、この内容を音声データにより mp3 データで入力し、編集作業を遂行した（図 4）。

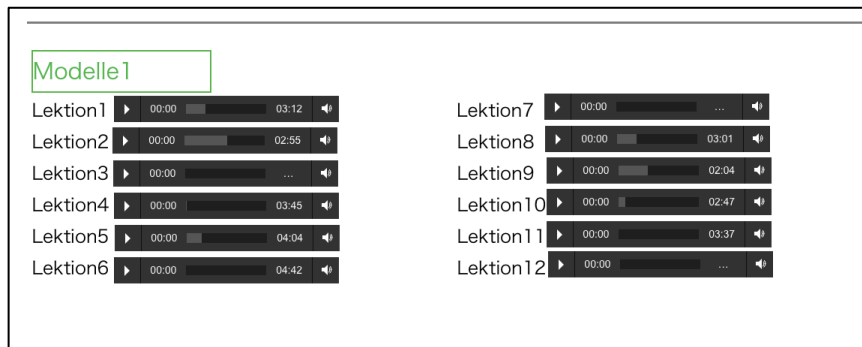


図 4 新規作成後のドイツ語音声教材

<http://deutsch.sfc.keio.ac.jp/modelle1.html>

4. 本研究の結果および今後の展望

本研究の枠組みの中で遂行される教材作成は、大学で外国語を履修する学習者の学習支援システムにとどまらない。今後、特定の学問分野を外国語スキルとして学習する場合、それぞれの分野に特化した専門用語の運用を各学習者が自分で学習することのできる環境をも提示することができると考える。その場合に、このいわゆる学習基盤は、外国語関連の講義科目やスキル科目への反映に生かせるだけでなく、本プロジェクトの言語学習環境デザイン構築にも、重要な参考データとなりうる。今後、多言語への拡張を踏まえた「成長型」のシステムが構築構築を目指す。

なお、本研究結果の一部は、2017 年度の 11 月に開催された ORF（オープンリサーチフォーラム）で展示およびポスター発表をおこなった。